

平成29年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
◆館の重点評価項目は、豊栄図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名:豊栄図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果(確定値)	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワーキングを活かした課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数(所蔵調査件数を含む)は目標を下回った。 ○レファレンス件数 6,393件	・レファレンスや所蔵調査の件数は減少した。 ・豊栄図書館で、検索端末レシートの見方ガイドを作成したり、書架配置図を工夫した結果、利用者自身が資料を探しやすくなり、所蔵調査が減少したと考えられる。 ・広報誌や館内掲示等でのPRを行い、レファレンスを迅速に対応できるよう専門研修等に参加し職員のスキルアップに努め、件数増を図りたい。	3 大変評価する。44.4%	・多目的の方が利用し要望も多岐に渡るが、職員も少ない中よく対応していると思う。以前利用したときもよく調べてもらった。専門性が求められるので、さらなる研鑽が必要である。 ・レファレンスに関しては、窓口委託業者のわからない時に職員を呼んでいるため時間がかかっているが、利用者の立場としてはもっとスムーズに対応してほしい。 ・市民の中にはレファレンスサービスを知らない人がまだいると考えられる。広報が必要なのではないか。 ・件数で評価するのではなく、レファレンスの内容で評価してほしい。 ・利用者自身による資料検索がしやすくなる工夫など努力していると思うが、レファレンス件数が減少したことは残念である。
	◆館の重点評価項目 多様な利用に応じた図書館サービスの提供	・公民館事業へ図書館資料の提供等を行う。	・北区図書館では、北区の地区公民館主催事業に合わせて図書館資料を提供した。 ご近所だんご ゆりかご学級 幼児期家庭教育学級 とよさか発異文化への旅	・豊栄図書館のとなりにある豊栄地区公民館、松浜図書館と同じ建物内にある北地区公民館の事業に合わせ、職員が出向いたり、図書資料の提供を行い読書活動の振興や図書館利用のPRを行ったが、やや減少傾向。 ・今後はより幅広い組織との連携により増加を図りたい。	3 大変評価する。55.6%	・市民には、公民館事業が何をしているかわからない人が多い。もっと公民館の広報が必要。その中で図書館運営を考えるべき。 ・公民館事業への資料提供については評価するが、それが参加者のニーズや本に対する関心を高めることに繋がるかは疑問。楽しさを伝えることは重要。 ・公民館等に出向いての資料提供は、市民へのPRとして有効と思われる。幅広い年齢層への取り組みとして強化をお願いしたい。
特色ある地域づくりを推進する分権型図書館	◇全館共通評価項目 郷土資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・北区を中心とした郷土資料、行政資料の収集に努めた。豊栄図書館では福島潟関連資料、松浜図書館では水俣病(熊本含む)関連資料の収集に力を入れている。 ○H26年度蔵書冊数 11,023冊 ○H27年度蔵書冊数 11,299冊 ○H28年度蔵書冊数 11,680冊 ○H29年度蔵書冊数 11,997冊	・郷土資料、行政資料の収集を進めながら有用性を判断し整理など進めた。 ・郷土資料の利用については頭うちの状況。展示等で活用し、隠された魅力に光を当てることで利用増につなげたい。 ・地域の歴史や自然を調べたいとき、また郷土出身の偉人の足跡を調べるときなどに利用されている。	3 大変評価する。	・今まで郷土・行政資料の収集は一つの目標を達成されたように思う。今後は新しいテーマに取り組むべきでは(少子高齢化等)。 ・地域の歴史・自然・伝説等を調べるニーズがあるのは学校なのではないか。学校との連携・情報提供が重要である。 ・講演会の展示などを含め、発表していくことが必要だ。博物館との連携も。 ・地道な活動ではあるが、地域に根差した独自性を高める上で重要な役割を果たしていると思われるので、利用拡大に向けた取り組みの工夫を望む。
	◆館の重点評価項目 地域の声を反映した図書館運営	・図書館協議会を開催し、図書館の事業についての理解と関心を深めていただくとともに、話し合われた内容を図書館の運営に活かす。	・図書館協議会を年2回開催 第1回 平成29年6月26日(月) 第2回 平成29年11月29日(水) ・「図書館へのたより」受案件数 7件(「市長への手紙」含む)	・図書館協議会で委員の皆様から忌憚のない意見をいただくことができた。 ○地区図書室のあり方 ○「静かでない図書館」の検討 ○図書館協議会の開催時期等 ・「図書館へのたより」など利用者の意見をできるだけ尊重し、改善できるものは改善した。 ○施設内の授乳スペース等	3 大変評価する。55.6%	・現在年2回であるが、もっと具体的な意見を述べ合う機会を増やしてほしい。 ・委員にもっと一般市民の立場の人を登用すべき。また、図書館利用の促進を図るべく活動すべき。 ・まだ静かすぎて入りにくいという意見をよく聞く。 ・教科書の展示など、変化している学校教育について理解を深める機会になった。 ・地域住民の意見を積極的に取り入れ、反映していく姿勢は評価できる。具体的に改善に繋がった点はよかった。
子ども・社会・民書融合型を推進する	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続するとともに、赤ちゃんタイムを全館に拡大し、うちどく(家読)を推進する。	・ブックスタート事業 438人に実施 参加率約95.6% ・うちどく(家読)読書ノートの配布冊数 51冊 ・うちどく(家読)読書ノート(ぬりえ)の配布枚数 151枚 ※配布は秋期のみ	・ブックスタート事業では乳幼児期から読書が身近に感じられるきっかけづくりができた。保護者からは好意的な意見をいただき、9割以上の参加率となっている。 ・うちどく(家読)読書ノートの配布、学校訪問時にうちどく(家読)の普及を促し、子育て世代の親子からも多く図書館を利用していただいた。	3 大変評価する。66.7%	・司書・職員・ボランティアなどが活躍している。未来を担う人材の育成のため頑張ってもらいたい。 ・ブックスタート事業は素晴らしい活動だが、それで終わるのではなく乳幼児期にもっと本と触れ合える事業を継続していくと、もっと子ども達や保護者達の中に本が定着していくと思う。 ・ブックスタート事業の定着、実施率の高さは、児童健全育成における図書館の役割を果たす素晴らしい実践として評価できる。うちどく読書ノート配布と合わせ、継続してほしい。
	◆館の重点評価項目 学校図書館支援センター事業 子どもの読書活動推進につながる事業等の実施	・学校図書館支援センターが、学校・地域・関係機関と連携し、学校図書館の活用がさらに活性化されるよう取り組みを進める。 ・職員・ボランティアによる「おはなしのじかん」をはじめとする各種事業等の実施。	・学校図書館支援センターによる学校図書館訪問(61回)及び業務相談(414件)等を実施した。 ・おはなしのじかん(職員・ボランティア)、わらべうたのじかん、夏休み事業(一日子ども図書館員、かがく実験室)を実施した。 ○おはなしのじかん参加者数 615名 ○わらべうたのじかん参加者数 57名 ○一日子ども図書館員参加者 11名 ○かがく実験室参加者数 4名	・学校訪問などにより、学校図書館は着実に「読書センター」「学習センター」「情報センター」の機能を増していると考える。 ・おはなしのじかん、わらべうたのじかんなど参加者には好評であるが、参加者数は全体的に減少傾向。参加者増に向け、広報誌等でのPRの継続や夏休み事業の内容の検討を行いたい。	3 大変評価する。77.8%	・おはなしのじかんはあまり知られていないのではないかと感じる。わらべうたのじかんはたくさんいる。 ・学校図書館への支援はとても活発に行われているので、ますます期待できる。子どもたちへの影響が出てくると思う。 ・おはなしのじかん、わらべうたのじかんが好評なのはとてもよい。工夫して参加を促していけるとよい。 ・学校図書館に対する各種支援の取組みは、質・量ともに申し分なく、職員の努力に敬意を表する。継続して図書館機能を発展させてほしい。
市民参加と協働を推進する	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・ボランティア団体との協働の取組実施 おはなしのじかん、春のおはなしリレー、夏のおはなし会、夏のおはなし会、夏のスペシャルおはなし会、夏のおはなし会、秋のスペシャルおはなし会、冬のおはなし会、冬のスペシャルおはなし会、冬のおはなし会、わくわく体験夏まつり、石塚さんの昔ばなしを楽しむ会、大人のためのおはなし会、わくわく読書会、クリスマス会 ○ボランティア活動者数 226名	・ボランティア団体との協働は予定どおりに実施でき、共催事業は定着化している。参加者からもおおむね好評であった。 ・書架整理・資料修理等は減少傾向。読み聞かせボランティア養成講座や広報誌でのPR等で、ボランティア活動全体の活性化を図りたい。	3 大変評価する。66.7%	・社会全体が多様化する中、運営で難しい面もあると思うが、自治会・行政等、声かけによる啓発は欠かせない。 ・ボランティアとの協働による活動を今後も続けてもらいたい。図書館はその橋渡し役として、ボランティアも参加者も楽しいと思って活動できるようにしてほしい。 ・絵本への関心、物語への関心を深め、協働で実施し定着されていったことはとても素晴らしい。 ・ボランティア団体との協働は、地道に継続していくことが重要と思われる。共催事業の定着化は評価するが、ボランティア活動の活性化に向けてさらに努力を重ねてほしい。
	◆館の重点評価項目 ボランティア養成講座の実施 ボランティア交流会の実施	・ブックスタートボランティア養成講座と、読み聞かせボランティアステップアップ講座を実施する。 ・ボランティア交流会を実施する。	・ブックスタートボランティア・ステップアップ講座(江南・秋葉区合同)参加者38名 ・ボランティア交流会 参加団体4団体	・ブックスタートボランティア養成講座、読み聞かせボランティアステップアップ講座は実施できなかったが、今後他館とも調整しながら開催し、ボランティアの裾野を広げていきたい。	3 大変評価する。22.2%	・ボランティアのすそ野をどんどん広げ、次世代に繋げていくことが必要。育成の事業をもっときめ細やかに行ってほしい。 ・他館と協力しながらボランティアを増やしていくことはとてもよい。ボランティアを気軽にできることも必要な要素となる。 ・養成講座を中学・高校の授業に関わらせて実施し、興味関心を高めてほしい。 ・新規ボランティアの養成やステップアップは活動の活性化に必要な事業と思われるので、実施に向けて努力してほしい。